

pata
pata
study

**Kobun
Tango**



Obunsha

学院图书馆
书 章

pata
pata
study

**Kobun
Tango**



Obunsha

パタスタ

古文単語450

初版発行 2000年4月1日

著者 板野博行

発行者 赤尾文夫

編集責任者 加藤栄政

編集担当者 今村貞佳

印刷所 幸和印刷株式会社

製函所 清水印刷紙工株式会社

製本所 マルマン株式会社

清水印刷紙工株式会社

発行所 株式会社 旺文社

〒162-8680 東京都新宿区矢来町78

●乱丁・落丁については送料小社負担にて
お取り替えいたします

●お客様相談窓口 Tel. 03(3266)6400

●ホームページ <http://www.obunsha.co.jp/>

SOA057

© Hiroyuki Itano 2000

(許可なしに転載、複製することを禁じます)

ISBN4-01-032578-X

Printed in Japan

◇旺文社「図書案内」をご希望の方にお送りいたします。下記フリーダイヤルにご連絡ください。
◇旺文社には本書以外にも多数の出版物がございます。お近くの書店で品切れの場合は、下記までご相談ください。

お客様専用フリーダイヤル

0120-02-4819

(受付時間は土・日・祝日を除く 9:30~17:30)

目次

でる順250 ————— 2

物語・日記50 ————— 52

随筆・説話50 ————— 62

歴史・軍記50 ————— 72

近楊語50 ————— 82

古文出典 　　でる順30 ——— 92

でる順 250

シク・形容詞

1 あさまし



副詞

2 やがて



副助詞

3 だに



シク・形容詞

4 あやし



副詞

5 え（～打消）



シク・形容詞

6 ゆかし



ク・形容詞

7 わりなし



副詞

8 おのづから



ク・形容詞

9 おぼつかなし



シク・形容詞

10 くちをし



入試本番ではこう出た！

1

- ◆あさましと思へる気色しるきを、
(「増鏡」専修大)

2

- ◆暮れはてぬれば行幸^(みゆ)なりぬ。御供に、や
がて引きつづけて参りぬ。
(「讃岐典侍日記」関西学院大)

3

- ◆女御とだに言はせずなりぬるがあかず口惜^(くち)
しう思さるれば、(「源氏物語」京都産業大)

4

- ◆あやしき賤^(し)の男の声々、目さまして、
(「源氏物語」立教大)

5

- ◆我もえせきあえねど、いみじさに、たはぶ
れにいひなさんとて、
(「蜻蛉日記」神奈川大)

6

- ◆消えかかる露の命の果ては見つさてもあづ
まの末ぞゆかしき
(「増鏡」中央大)

7

- ◆手にてもえさし出づまじうわりなし。
(「枕草子」成城大)

8

- ◆我心をつゝしみて、身を思ひくたさねば、
おのづから身に過ぐるさいはひもある物ぞ
(「たまきはる」日本大)

9

- ◆なほ、「いづくにもものしたまへる」とは、
のたまひ出でぬを、いとおぼつかなくて、
(「とりかへばや物語」神戸大)

10

- ◆朝臣^(あそ)こそ、むげに口惜しくはありけれ。
かばかりの事、知らぬやうやはある。
(「増鏡」大谷大)

でる順 250

副詞

11 さすがに



副詞・名詞

12 としごろ



副詞

13 なかなか



ク・形容詞

14 びんなし



形容動詞

15 むつかしげなり



サ変・動詞

16 かなしくす



ラ四・動詞

17 こころもとながる



ク・形容詞

18 つれなし



副詞

19 なほ



ク・形容詞

20 はかなし



入試本番ではこう出た！

11

- ◆こととおぼさず。**さすがに**、つねには見えたてまつる。
(「大和物語」神戸女学院大)

12

- ◆**年ごろ**にいよいよ荒れまさり、すごげにておはす。
(「源氏物語」横浜国大)

13

- ◆いはんや劣れらん身にて褒美**ななか**かたはらいたかるべし。
(「十訓抄」岐阜聖徳学園大)

14

- ◆「心幼くおはする人にて、**便なき**こともこそ出でくれ」と、人はうけまうさざりけり。
(「大鏡」秋田大)

15

- ◆今宵こそいと**むつかしげ**なる夜なめれ。
(「大鏡」西南学院大)

16

- ◆父母のいみじく**かなしく**したまふ人なれば、
(「平中物語」青山学院大)

17

- ◆作絵仕うまつらせばやと、**心もと**ながりあへり。
(「源氏物語」明治大)

18

- ◆わが身いかにとして**つれなく**逃れ来つらむと浅ましくおぼえて、
(「西行物語」京都女大)

19

- ◆内には、**なほ**苦しき方かな、など思ふほどに、
(「蜻蛉日記」愛知学院大)

20

- ◆明日は古郷(ふるさと)に返す文したためて、**はかな**き言伝(ことづて)などしやるなり。
(「奥の細道」立教大)

でる順 250

21 ばや

終助詞



22 いとほし

シク・形容詞



23 おどろく

カ四・動詞



24 かたはらいたし

ク・形容詞



25 こころにくし

ク・形容詞



26 しるし

ク・形容詞



27 なべて

副詞



28 ののしる

ラ四・動詞



29 ものす

サ変・動詞



30 ゆゆし

シク・形容詞



入試本番ではこう出た！

21

◆苦しかるまじくは、連れて下らばや。

(「義経記」 広島大)

22

◆いといみじく物ゆかしげなるは、いとほし
けれど、

(「更級日記」 明治大)

23

◆夢のうちにもいみじうかしこまりまうすと
おぼすに、おどろきたまひて、またさらに
もいはず。

(「大鏡」 愛知大)

24

◆人々 (= 女房たち)、いとかたはらいたし
と思ひて、「あなかま」と聞こゆ。

(「源氏物語」 岡山大)

25

◆かはむしの心ふかきさましたるこそ心に
けれ

(「堤中納言物語」 岡山大)

26

◆けしきも変はるがしるきにや、

(「讃岐典侍日記」 京都女大)

27

◆かけむと思ふに、なべての手にてはわろく
はべれば、

(「大鏡」 愛知大)

28

◆いといみじうののしりて、門さしつ。

(「大和物語」 金沢女大)

29

◆時は子^(ね)ばかりなり。もろ共なる人の所に
帰りて、物など物するほどに、

(「蜻蛉日記」 愛知学院大)

30

◆いづれもゆゆしく聞こえし。

(「保元物語」 青山学院大)

でる順 250

31 あいなし

ク・形容詞



32 あくがる

ラ下二・動詞



33 うたてし

ク・形容詞



34 おどろおどろし

シク・形容詞



35 かしこし

ク・形容詞



36 かしこし

ク・形容詞



37 かたみに

副詞



38 かは

係助詞



39 がな

終助詞



40 ぐす

サ変・動詞



入試本番ではこう出た！

31

- ◆あまりに興あらんとする事は、必ず**あいな**
きものなり。
(「徒然草」法政大)

32

- ◆いとせめて**あくがる**る心催すにや、
(「うたたね」奈良女大)

33

- ◆わが心ながらも**うたて**しくおぼえて、
(「西行物語」京都女大)

34

- ◆出でにけるすなはち、はひ入りて、**おどろ**
おどろしう泣く。
(「蜻蛉日記」法政大)

35

- ◆おなじ帝^(みか)、狩いと**かしこ**く好みたまひけ
り。
(「大和物語」千葉商大)

36

- ◆おのが師などのわろきことを言ひあらはす
は、いとも**かしこ**くはあれど、
(「源氏物語玉の小櫛」立教大)

37

- ◆をかしきさまにしなしつつぞ、**かた**みにと
りかはさせたまひぬれど、
(「大鏡」秋田大)

38

- ◆かくてのみあるべきこと**かは**、のぼりなむ
と思ふに、
(「土佐日記」三重大)

39

- ◆あはれ味方**が**な、太刀を乞はばやとおもふ
ところに、
(「平治物語」九州大)

40

- ◆私の従者をば**具**しさぶらはじ。
(「大鏡」西南学院大)

でる順 250

41 こころうし

ク・形容詞



42 こころざし

名詞



43 こしらふ

ハ下二・動詞



44こそ（～已然形）

係助詞



45 さらに（～打消）

副詞



46 ところせし

ク・形容詞



47 ほいなし

ク・形容詞



48 むげなり

形容動詞



49 めづ

ダ下二・動詞



50 めでたし

ク・形容詞



入試本番ではこう出た！

41

- ◆「さればよ」と、いみじう**こころうし**と思へども、
(「蜻蛉日記」桜美林大)

42

- ◆年ごろの**心ざし**忘るべからず。
(「古今著聞集」上智大)

43

- ◆人の聞かむもうたてものぐるほしければ、問ひさして、とかう**こしらへ**てあるに、
(「蜻蛉日記」東大)

44

- ◆中垣**こそあれ**、一つ家のやうなれば、望みてあづかれるなり。
(「土佐日記」愛知学院大)

45

- ◆いままで世にはべる身のおこたりなれば、**さらにきこえず**
(「蜻蛉日記」立命館大)

46

- ◆公事(おほこと)も繁く、**ところせき**御身に、おぼしはばかりに添へても、
(「源氏物語」横浜国大)

47

- ◆おのづから心えやせさせ給ひけむ、いと**本意**なきことに思し召しける、
(「大鏡」國學院大)

48

- ◆出家の志候ふが、日向入道とよばれんは**むげ**にうたてう覚え候。
(「平治物語」明治大)

49

- ◆小倉の山にいろいろとおもしろかりけるを、かぎりなく**めで**たまひて、
(「大和物語」金沢女大)

50

- ◆よろづのことよりも情あるこそ、男はさらなり、女も**めでたく**おぼゆれ。
(「枕草子」南山大)

でる順 250

51 やうやう

副詞



52 やすからず

連語



53 よしなし

ク・形容詞



54 あかず

連語



55 あからさまなり

形容動詞



56 あからめ

名詞



57 あぢきなし

ク・形容詞



58 あなかま

感動詞



59 あながちなり

形容動詞



60 あはれなり

形容動詞



入試本番ではこう出た！

51

◆やうやうもれ聞こえて、東^(訖)さまにもその心づかひすべかんめり。（「増鏡」関西学院大）

52

◆「あれはなぞ、あれはなぞ」と、やすからずいひおどろき、あさみ笑ひ、あざける者どももあり。（「更級日記」明治大）

53

◆執心こそよしなけれども、道を執する習ひあはれにこそ。（「沙石集」千葉大）

54

◆奥山の石間の水をむすびあげて飽かぬものとは今のみや知る（「更級日記」中央大）

55

◆母を養はむが為に菜摘みにあからさまに出でたるに、おのづからに行幸に遇へるなり（「今昔物語集」関西大）

56

◆もとのごとくあからめもせで添ひゐにける。（「大和物語」早大）

57

◆あぢきなく物咎^(とが)して、異名付きたる（「今昔物語集」学習院大）

58

◆あなかま給へ。心も得ず怪しくおぼえつれば、試みむと思ひて射つるなり。（「今昔物語集」関西学院大）

59

◆「世になき者を思ひそめて」と、あながちにいさめければ、（「平家物語」都立大）

60

◆露ばかりなれど、いとあはれにかたじけなくおぼえて、うち泣きぬ。（「源氏物語」駒澤大）

でる順 250

61 ありがたし

ク・形容詞



62 あるじす

サ変・動詞



63 いたし

ク・形容詞



64 いふもおろかなり

連語



65 いぶかし

シク・形容詞



66 いまそかり

ラ変・動詞



67 いまめかし

シク・形容詞



68 おくる

ラ下二・動詞



69 おこなひ

名詞



70 おと

名詞

